

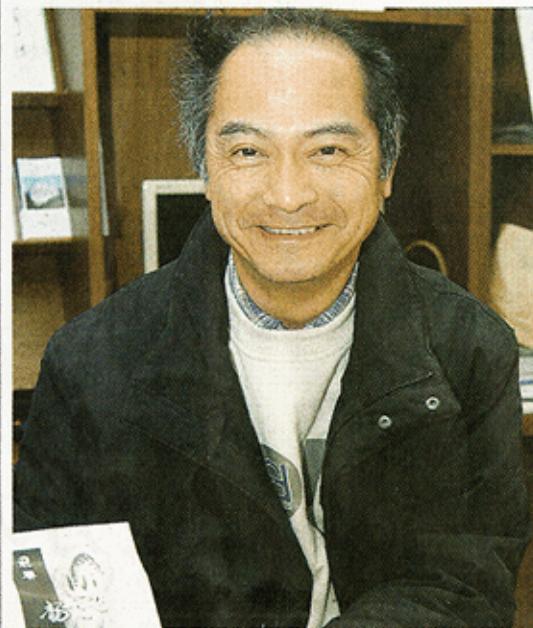
ぎふの人もよう

55

五倍ほどの大きさ。「他品种が混ざったのか？」翌年、遊び半分で栽培、十キロほど収穫できる。炊きあげた米から香ばしい香りが立ち込め。甘みと粘りが口の中に広がった。「新品種だ。米の概念が変わるかもしれない」。農家の長男に生まれ、当時は農水省に勤務、米のことを知り尽くす体が衝撃で震えた。

「龍の瞳」育成者

今井 隆さん(54)=萩原



いまい・たかし 1955年、下呂市萩原町宮田生まれ。岐阜経済大経済学部卒。旧益田高卒業後、旧農林省に入り、33年間務める。2000年に新品種を発見、水の神様といわれる龍、自分との妻ひとみさんの名前にちなんだ「龍の瞳」と名付ける。水稻品種名は「いのちの壱」。全国米・食味分析鑑定コンクールで連続金賞を果たすなど受賞多数。龍の瞳や「けんとん」などを活用、地域振興策を練る生産者や行政関係者らによる組織を近く立ち上げる。

(林康雄)

森再生し究極の米作り

二〇〇〇年秋、自宅前の棚田を見回る足が止まつた。コシヒカリに混じり、草丈が長いわずか数株の穂が目に飛び込んできた。「オーラを発し、「見つけ」つて」。一握りの「命」の発見が、こだわりの米作り、命をはぐくむ森の再生への挑戦の始まりだった。

「龍の瞳」の発見が、こだわりの米作り、命をはぐくむ森の再生への挑戦の始まりだった。農薬使用量を一般的な米の三分の一以下に抑えるほか、種子は六〇度の湯に十分間浸して殺菌

熱い思いは少しづつ広がり、当初一粒ほどだった。農薬栽培」。不耕起栽培た田は、〇九年には八十粒になり、収量は三百八十㌘を超えるまでになつた。農家は八人から県内だけで約百五十人に増えた。

昨年三月、会社の収益を活動の基本原資にした「昆虫や微生物などの木酢液の活用なども模索しながら、究極への道」へ進んだ。農家は八人から県内だけで約百五十人に増えた。農村との交流事業も始めた。農村との交流事業も始めた。農薬栽培」。不耕起栽培た田は、〇九年には八十粒になり、収量は三百八十㌘を超えるまでになつた。農家は八人から県内だけで約百五十人に増えた。

岐阜支社
〒500-8875
岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地
058(265)0191
Fax(262)8706
(販売)(265)0265
(広告)(266)4791
(事業)(265)0267
多治見支局
0572(22)3121
Fax(23)5331
大垣支局
0584(78)2030
Fax(74)6460
高山支局
0577(32)0350
Fax(34)5215
関支局
0575(22)3234
Fax(24)3939
中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052(221)0800
Fax(221)0819
Eメール
center@chunichi.co.jp



老人保健施設
コートレイ各務原
医療法人 洋洲会
各務原第一外科
岐阜県各務原市萩原青苔町4丁目1-70
TEL.058-382-3399